



Title	佐久間教授の死を悼む
Author(s)	福富, 孝治
Description	佐久間修三の肖像・略歴・研究業績一覧あり
Citation	北海道大学地球物理学研究報告, 5, 1-4
Issue Date	1957-10-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/14377
Type	other
File Information	5. pdf





故 佐久間修三教授

佐久間修三教授略歴

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 大正 13 年 3 月 26 日 | 新潟県新発田市に生る |
| 昭和 11 年 3 月 | 新発田尋常高等小学校卒業 |
| // 16 年 3 月 | 新潟県立新発田中学校卒業 |
| // 16 年 4 月 | 第一高等学校理科甲類入学 |
| // 18 年 9 月 | 同上 卒業 |
| // 18 年 10 月 | 東京帝国大学理学部地球物理学科入学 |
| // 21 年 9 月 | 同上 卒業 |
| // 21 年 10 月 | 東京帝国大学地震研究所研究生 |
| // 22 年 3 月 | 東京帝国大学助手, 地震研究所勤務 |
| // 28 年 12 月 | 北海道大学理学部助教授
地球物理学教室地震火山学講座担当 |
| // 29 年 4 月 | 東京大学地震研究所研究員併任 |
| // 32 年 4 月 | 北海道大学理学部教授 |
| // 32 年 4 月 18 日 | 札幌市に於いて死去 |

佐久間教授の死を悼む

北海道大学理学部地球物理学科佐久間修三教授は、昭和32年4月18日北大医学部付属病院で亡くなった。昨31年12月初旬心臓が少し悪いとのことで北大病院に入院されたが、12月末にはかなり快方に向われ、1月初旬には退院できそうだとのお話で教室員一同も安心していった。しかし、その後の容態は一進一退で、遂に肝臓並びに腎臓病をも併発され、4月7~10日頃重態となり、夫人御両親の懸命な看護と病院諸先生の懇切な治療のいかなく18日14時45分亡くなったのである。

同氏は第一高等学校をへて東京大学理学部地球物理学科にすすみ、昭和21年卒業して直ちに東京大学地震研究所に入った。地震研究所においては主として水上武教授の指導の下に助手として火山物理学の研究に従事し、その間に14篇の論文を発表しその名は当時から学会に知られていた。特に1,000°C前後における火山岩の粘性に関する実験的研究は特筆すべきものであろう。

昭和28年4月北大理学部に地球物理学科が新設されたが、同氏の業績並びに人格が認められて同年12月第二講座(地震学及び火山学)担当の助教授を命ぜられた。建設途上にあつた地球物理学教室の充実や学生の指導に力をつくされるとともに、村瀬勉助手と共に北海道火山の地球物理学的研究に精励された。死去まで3年4ヶ月のそんなに長い期間ではなかつたが、駒ヶ岳・樽前・有珠・十勝岳・雌阿寒など北海道の活火山で同氏の足跡の到らないところはなく、その業績は16篇の秀れた論文として発表された。これらの業績が認められて昭和32年4月17日付で教授に昇任されたが、元気な姿を再び見るのできなかつたのは悲しみの至りである。

昭和31年にも雌阿寒岳の活動が起り、たびたび現地に研究におもむかれた。別表同教授業績表から判るように、この1年間に10篇以上に論文と Handbuch der Physik Bd. XLVIII に Physical Volcanology の項を執筆され、又“北海道火山の地球物理学的研究”という題で論文を纏められた(これは学位論文として東大に受理直前に死去されたと聞いている)。加うるに授業学生指導などの仕事もあり、かなりの無理をされたようで、これが幼時からあまり丈夫でなかつた心臓に悪影響を及ぼし発病の一原因となつたように思われる。

佐久間教授の死去は御遺族のお悲しみは申すまでもなく、門下生、われわれ友人一同心から残念に思う次第であるが、すぐれた研究者としての佐久間教授の死は学会にとつて大きな損失であり又当地球物理学教室には大きな空隙を与えたのである。しかし、同教授の残された北海道火山についての秀れた業績は北海道の火山の在続するかぎり生命を保ち後進の指標となることを信じて疑わない。又同教授の学問研究に対する熱心な態度と厚い友情とは教室員一同の

心にいつまでも残るであろう。

ここに謹んで哀悼の意を表するとともに佐久間教授の御冥福を心からお祈りする次第である。

昭和 32 年 4 月

北海道大学理学部地球物理学教室

(福 富 孝 治 記)

佐久間修三教授の研究業績

題 目	雑 誌 名
1. 桜島新噴出熔岩流について	地震研究所彙報 第 24 号 (1946) (B.E.R.I.)
2. 最近の桜島火山の活動について (II) 新熔岩流の帯磁と傾斜変化	〃 〃
3. Land-slides at Nodani and Nechi in 1947.	〃 第 25 号 (1947)
4. 兵庫県特に淡路島における震害	地震研究所速報
5. 和歌山県御坊町における余震観測 (特に地震動と地盤との関係について)	〃
6. The Earthquake-motions on Various Formations of the Earth's Surface. (I) Observation at Kōti City.	Bulletin of the Earthquake Research Institute, XXVI (1948) Parts 1~4
7. (II) Observation at Gobō and Kiribe.	〃
8. Minor Activity of Volcano Yake-yama in 1949.	B.E.R.I. XXVII (1949) Part 1~4
9. Recent Activities of Volcano Usu (VI) Precise Levelling Around Mt. Usu in 1949.	B.E.R.I. XXVIII (1950) Parts 1~2
10. Damage on Window-panes by the Airwaves of Explosion of Volcano Asama on Sept. 23, 1950.	B.E.R.I. XXIX (1951) Part 4
11. Earth-current Potentials Near Boundaries of Various Geological Formations.	B.E.R.I. XXX (1952) Part 1

題 目	雜 誌 名
12. Elastic and Viscous Properties of Volcanic Rocks at Elevated Temperature. Part 1.	B.E.R.I. XXX (1952) Part 3
13. Elastic and Viscous Properties of Volcanic Rocks at Elevated Temperatures. Part 2.	B.E.R.I. XXXI (1953) Part 1
14. Elastic and Viscous Properties of Volcanic Rocks at High Temperatures. Part 3. Ooshima lava.	B.E.R.I. XXXI (1953) Part 4
15. Report on Volcanic Activities and Volcanological Studies Concerning Them in Japan during 1948~1951.	Bulletin Volcanologique Série II Tome XIV-1953
16. Effect of Thermal History on Viscosity of Ooshima-lavas. (Elastic and Viscous Properties of Volcanic Rocks. Part 4)	B.E.R.I. XXXII (1954) Part 2
17. On Geomagnetic Studies of Mt. Fuji (Huji) and Other Volcanoes in Japan.	Proceedings Seventh Pacific Science Congress, Vol. 2, Auckland and Christ-church, 1953.
18. 1955 年の雌阿寒岳の活動	北海道地質要報 第31号 (1956)
19. 北海道火山の地球物理学的研究 (その1) 北海道火山の地磁気伏角測量概報	北海道大学地球物理学研究報告 第4号 (1956)
20. 北海道火山の地球物理学的研究 (その2) 十勝岳の近況	〃
21. 北海道火山の地球物理学的研究 (その3) 駒ヶ岳有珠山山麓の最近の地殻変動	〃
22. 石基鉱物のできかたの簡単な模型	科 学 1956. 7月号
23. On Magnetization of Mt. Fuji (Huji) and Other Volcanoes in Japan.	Bulletin Volcanologique Série II Tome XVIII, 1956.
24. 火山噴煙の昇りかた	科 学 1956. 9月号
25. 火山微動の周期別頻度図について	地 震 第2輯 第9巻 第1号 (1956)

題 目	雑 誌 名
26. “乱れ” としてみた火山の煙	火 山 第 2 集 第 1 卷 第 1 号 (1957)
27. Recent Activity of Volcano Me'akan-dake.	The Journal of the Faculty of Science, Hokkaido Univ. Series VII (Geophysics), Vol. 1 No. 1 (1957) (北大理学部紀要)
28. Volcanic Tremor of Me'akan-dake.	//
29. Local Geomagnetic Anomalies on and around Volcanic Domes, with Special Reference to the Anomaly on Syowa-Sinzan. Usu.	Japanese Journal of Geophysics Vol. 1 No. 3 (1957)
30. Physical Volcanology.	Handbuch d. physik Bd. XLVIII (1957) (Encyclopedia of Physics Vol. XLVIII)
31. 火山ガラスの諸性質	火 山 第 2 集 第 2 卷 第 1 号 (1957)
32. 火山地域に起る地震の最大振巾の度数分布	北海道大学地球物理学研究報告 第 6 号掲載予定